

南会津ワカモノ会議が町へ提言書を提出

若者の声を町政に届け、まちづくりに反映することを目的に、平成28年度に設置された「南会津ワカモノ会議」。これまで若者同士の意見交換や交流の場を設け、若者の目線から町の将来像への議論を深めてきました。

3月27日、同会議の星久徳会長らが町長室を訪れ、若者が集まる機会の創出やまちづくりの担い手育成などをまとめた提言書を、大宅町長に手渡しました。



提言書を手渡す星会長①と渡部さん②



提言書には、南会津ワカモノ会議が4年間積み上げてきた議論を形にした内容が盛り込まれています。「若者が元気もりも楽しんでる町」をテーマに掲げ、南会津ワカモノ会議が進めてきた取り組みを振り返りながら、提言内容を紹介します。

提言① 「町内一斉ノー残業デーの実施」

【提言理由】

現代の若者は働く上で、ワークライフバランスを重視している。働きながらも「楽しく充実した生活を送りたい」という意識を持つ若者も多いことから、町内で若者同士が集まる機会を創出し、「仕事以外の生活」を充実させる取り組みを進めたい。

平成29年度に取り組んだ「ノー残業デー」の試みでは、町内企業88社から賛同を得ることができた。企業の働き方改革に対する意識も高いことがわかる。

若者が集まる機会を創出するため、町内の企業が「一斉に「ノー残業デー」を実施できる基盤を整備できないか。毎月第2金曜日を「町内一斉ノー残業デー」として条例化することで、いつもより早い退社が促され、趣味の時間や友人と過ごす時間が増えることが期待される。



平成29年10月13日（金）第1回目のノー残業デーに合わせ年齢を問わず楽しめる映画の上映会を開催しました

MINAMI AIZU WAKAMONO KAIGI

提言② 「プロモーション活動の場としてスキー場を活用」

【提言理由】 県内外から年間数十万人と多くのスキーヤー・スノーボーダーが訪れるスキー場は、広告やプロモーションを行う絶好の場所である。

スキー場のあらゆる場所（ロッジ、リフト、スタッフウェアなど）で広く広告を募集することで、収入源が確保でき、安定した経営につながる。スキー場自らが広告スペースを提供し、町内企業へ掲載の呼びかけを行う取り組みが必要ではないか。

また、スキー場で開催されるイベントに関心を持つ来場者も多く、定期的にイベントを開催することはスキー場自体の魅力向上させる。

平成29年度に会津高原たかつえスキー場で開催したイベントには、当日の参加者を得ることができた。

町最大の誘客資源であるスキー場を活用したプロモーション活動の強化は、町にとっても誘客面で大きなメリットがあるため、積極的な活用を願いたい。



たかつえスキー場でのイベントには栃木・茨城・千葉など県外から多くの方に参加いただきました



企画したイベントを成功させるためメンバー同士で協議や準備を重ねました

MINAMI AIZU WAKAMONO KAIGI

提言③ 「ビアガーデンの開催」

【提言理由】 平成30年度に開催したビアガーデンには多くの若者が参加し、若者が集まる機会の創出に大きく貢献した。

開催にあたっては、SNSを活用した告知を行い、経費をかけずとも多くの集客につなげることができた。

南会津ワカモノ会議の活動に賛同し、積極的に支援や協力を申し出る団体もあることから、確固とした運営体制の構築も十分可能である。

参加者個人や各団体から大きな反響があったイベントであり、引き続き南会津ワカモノ会議が中心となり事業を実施したい。多くの関係団体を巻き込みながら、持続可能な運営体制を目指しているため、町の継続した支援を願いたい。



一日限りの復活を遂げたビアガーデンのチラシ



ただ一緒に盛り上がるだけではなく町の将来について意見を交わす様子が見られたことが印象的でした



平成30年8月11日（土）に開催したビアガーデンには240人もの参加者が訪れました